

# 

六ッ美西部小学校 5年 野田 崇達

## 

生物部の活動で、学校の自然ランドで蛍の飼育を行ったが、成虫に成長したものは少なかった。岡崎市内で蛍が観察できる川の環境を調べて、今後の蛍の飼育に生かそうと思ったから。

## 

ペットボトル、水温計、カメラ、顕微鏡、ビーカー、リトマス試験紙、ろ紙

## 

①今年、岡崎市内で蛍が観察できた川に行き、周りの環境、水の色、水のPH、水温、土手の土、水中の土、水中の生き物、水中の微生物、周りの植物について調べて表にまとめる。

②学校の自然ランドについても、①と同様のことを調べて比較してみる。

③分かった事柄をもとに、今後、蛍の飼育に生かしていくことを考える。

## 

	乙 川	鳥 川	竜泉寺川	自然ランド
①周りの環境	 川の周りには大きな木が生えており、林になっている	 川の周りには水田畑で近くに山がある	 川の周りには水田畑で少し離れた所に山と民家がある	 コンクリートで川を造り、水道水を流す。周りに草が生えている
②水の色	すんでいる	すんでいる	すんでいる	少し濁っている
③水のPH	6~7(中性)	6~7(中性)	6~7(中性)	9(アルカリ性)
④水 温	8/125℃ 8/2326℃	8/125℃ 8/2326℃	8/127℃ 8/2327℃	8/128℃ 8/2329℃
⑤土手の土	 薄い茶色で、きめが細かい砂	 濃い黒茶色で、きめが細かい砂	 薄い茶色で、きめが細かい砂	 赤茶色で、きめが細かいが固まっている砂
⑥水中の土	 石や岩が多く、底は砂地	 大小の石や岩がたくさんある	 砂地が多く、石がある	 コンクリートの上に瓦の破片がある
⑦水中の生き物	多くの水生昆虫を確認。カワヨシノボリ、ドンコ、コイ、カワムツ、カエル、カワニナ、オイカワをつかまえる	多くの水生昆虫を確認。カワヨシノボリ、ドンコ、カワムツ、オイカワ、カワニナ、ブルーギル、サワガニ、フナをつかまえる	カワムツ、オイカワ、カワヨシノボリを確認	メダカ、ザリガニ、ドジョウ、ヌマエビ、オイカワ、コイなどを飼育
⑧水中の微生物	 アオミドロ、ボルボックス、ゾウリムシ、ツリガネムシ、ゲンジミジンコ、ミジンコを観察	 クハビルケイソウ、クラスルナ、アメーバ、クンショウモ、ミジンコ、イカダモ、サヤミドロ、アコタス、ミクロスポラを観察	 アオミドロ、ボルボックス、ミカヅキモ、ミドリムシ、ゾウリムシ、ツリガネムシ、ゲンジミジンコを観察	微生物を観察することはできなかった
⑨ 周りの植物	湿生植物が多く見られる	湿生植物が多く見られる	湿生植物が多く見られる	エノコログサ、ブタクサ、スギナなどの草が生えている

## 

蛍が生息する川の環境、水質について共通している点が多いことが分かった。また、森、川、土、コケ、魚類、水生昆虫、カワニナなどが生息する環境において、その1つ1つが複雑に関係しあっていることが、蛍の生息条件の重要なポイントであることが分かった。今後の蛍の飼育については、水のPH、土手の土を蛍が観察できた川の環境に近づけて、成虫になる数の違いを観察したい。今回はゲンジミの生息地を調べたが、別の種類の蛍についても調べてみたい。